

令和6年2月8日
於：区役所8階特別会議室

足立区消防団運営委員会 第1回会議

諮問事項

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける
方策はいかにあるべきか」

会議次第

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 委員の紹介
- 4 議 事
 - (1) 前回の答申結果の概要説明
 - (2) 諮問内容の説明
 - (3) 諮問における検討の方向性
 - (4) 今後の審議日程
- 5 今後の予定
- 6 閉 会

(配付資料)

資料1	令和5年度足立区消防団運営委員会委員名簿	P1
資料2	前回の特別区消防団運営委員会の答申結果及び対応方針	P2. 3. 4
資料3	東京都知事からの諮問	P5. 6
資料4-1	特別区消防団運営委員会の諮問（趣旨、課題等）	P7
資料4-2	〃（検討の方向性等）	P8
資料4-3	過去10年間の諮問一覧（5件）	P9
資料5	消防団員数、消防団員の平均年齢と災害出場件数の推移(資料)	P10. 11
資料6	足立区内消防団員に対するアンケート依頼文（案）	P12
資料7	アンケート（案）	P13. 14. 15. 16. 17
資料8	今後の審議日程	P18

令和5年度足立区消防団運営委員会委員名簿

令和6年2月

委員長	近 藤 やよい	区 長
委 員	工 藤 てつや	区議会議長
	吉 田 こうじ	区議会議員
	伊 藤 のぶゆき	
	富 田 けんたろう	
	小 林 ともよ	
	くじらい 実	
	渡 邊 喜一郎	千住防火防災協会会長
	吉 田 正 行	千住消防懇話会会長
	芦 川 一 男	足立防火防災協会会長
	古 庄 定 夫	足立消防懇話会会長
	早 川 元 康	西新井防火防災協会会長
	青 木 茂	西新井消防懇話会会長
	吉 澤 亮	千住消防署長
	星 和 良	千住消防団長
	石 澤 幸 洋	足立消防署長
	宇 佐 美 康 臣	足立消防団長
	小 板 橋 敏 美	西新井消防署長
	田 口 治 雄	西新井消防団長

※ 網掛けの委員は、令和5年10月以降新たに委嘱されたことを表しています。

前回の特別区消防団運営委員会の答申結果及び対応方針について

諮問事項

「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」 〈審議期間：令和3年10月から令和5年3月末まで〉

諮問の趣旨

特別区消防団は、それぞれの地域での密着性を生かしながら、災害発生時には消火を中心とした活動を積極的に行うとともに、平時においても、火災予防の啓発や住民への各種訓練指導等の役割りを担うなど、地域住民から頼られる存在である。

今後、発生が危惧されている「首都直下地震」や「南海トラフ地震」等の震災時においては、その特性を生かした迅速な出場による初期消火をはじめ、木造・防火建造物の密集地域での消火活動、また、消防隊との連携による延焼阻止活動、さらには長時間に及ぶ消火活動など、その役割は普段の活動以上に多岐にわたることが考えられ、東京消防庁との連携を考慮した組織的な対応が必要となる。このことから、消防団の実践的な対応力の更なる向上が、震災時における「より効果的な活動」につながると思われ、特別区消防団の消火活動能力の向上方策について諮問がなされた。

足立区は、特別区消防団の組織力の強化に向け団員減少に歯止めをかけるとともに、団員数確保を図ることを最優先に、効果的な活動方策について答申するものである。

足立区消防団運営委員会		特別区消防団運営委員会	東京消防庁
答申内容		答申内容	対応方針
震災に特化した実践的訓練の不足	実戦的活動力の向上	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別区消防団震災時活動マニュアル等を活用した実戦的な訓練及び署隊と連携した訓練の推進 2 実際の街区を使用した震災想定の実戦的な訓練の推進 3 消防団が主体となった総合的な訓練の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1 新たな訓練モデルの提示・検証による実戦的活動力の向上 2 積載車による出場から放水まで等の一連の火災対応訓練の推進 3 消防団訓練指導マニュアル等の整備による主体的な活動の定着化
	消防団への教育訓練	<ol style="list-style-type: none"> 1 消火班等に特化した研修や教育など教育訓練の充実 2 職員と団員が同一研修に参加するなどの統一的な教育の推進 3 消防学校が行う研修や資格取得講習の受講人員の増強 	<ol style="list-style-type: none"> 1 可搬ポンプ実技講習の試行・検証 2 消防団の消防学校研修への職員の聴講の検討 3 消防学校研修や各種講習のアンケートや時勢を踏まえた随時見直し
	訓練実施環境の改善や実施場所の確保	<p>区、消防団、消防署が緊密に連携し、都立及び区立の学校施設(廃校等含む)など、放水訓練等が可能な場所の確保に努め、実践的訓練の実現に向け交渉を進める。</p> <p>※ 放水訓練等が可能な場所の条件 一消防団可搬ポンプ積載車などが進入可能な地盤強度を備えていること、十分な排水機能があること、人工芝が敷かれていないことなど。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防署訓練施設や方面訓練場などの更なる活用 2 区など関係機関等と連携した新たな訓練場所の確保や総合的な訓練を実施できる大規模な訓練場の整備

足立区消防団運営委員会			特別区消防団運営委員会	東京消防庁
答 申 内 容			答 申 内 容	対 応 方 針
新型コロナウイルス感染症影響下の普段の訓練や新人教育訓練に対する方策	デジタル環境の有効活用と実動訓練の両立	<ol style="list-style-type: none"> 1 各分団配置のタブレット端末を活用したデジタル環境下での教育・訓練(事前学習等)を実施するとともに、放水等の実動訓練も回数を減らすことなく実施し、両立していく。 2 訓練による教育効果の向上のため、デジタル環境の活用、e-ラーニングシステムなどを活用した訓練、オンラインの活用による遠隔指導及び訓練録画映像による振り返り訓練の導入などを都に要望していく。 3 デジタル環境を活用した訓練における指導者(消防団員)の育成を都に要望していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 オンライン教養や遠隔による訓練指導の推進 2 訓練録画映像による振り返り訓練の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1 東京消防団e-ラーニングシステムの更新による利便性の向上 2 タブレット端末を有効に活用した教養や訓練の推進
	デジタル環境の充実	<ol style="list-style-type: none"> 1 任務及び階級別に応じた災害対応疑似体験など、新たなアプリケーションの導入を要望していく。 2 QRコードの読み取りなどを使い、各種資機材の取扱い説明動画を容易に確認できるような環境の整備を要望していく。 		
	新技術の活用	<ol style="list-style-type: none"> 1 ネット上の仮想空間などデジタル技術(AR、VRなど)を活用した放水訓練等が疑似体験できる訓練施設(環境)の導入を都に要望していく。 2 タブレットと接続し活用するVRゴーグルの導入を都に要望していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害対応や指揮の判断等ができるアプリの開発や導入 2 二次元コード活用による各種資機材の取扱説明動画の導入 3 ARやVRなど最新のデジタル技術を活用した訓練環境の導入 	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種資機材取扱い動画等にアクセスできる二次元コード読み取り方式の導入検討 2 ARやVRなどの技術を活用した訓練導入に向けた調査研究 (ARやVRなどの調査研究委託)

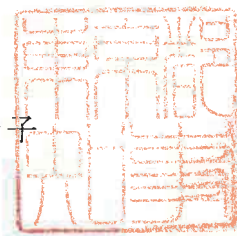
足立区消防団運営委員会		特別区消防団運営委員会	東京消防庁
答 申 内 容		答 申 内 容	対 応 方 針
消防団員数不足に伴う活動力の低下	若い世代の消防団員確保と組織活性化のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防団、消防署及び足立区が連携し、学校や事業所等への直接訪問による地域の繋がりを活かした募集活動をより強力に推進する。 2 若い世代に広く周知を図るため、SNS（足立区のAメール、ツイッター東京消防庁公式アプリ等）での広報の充実を図るとともに、ネット広告の充実・強化を都に要望していく。 3 幼少期から消防団とふれあう地域のイベント等の機会を増やすとともに、消防団による防災教育等を通じて、子供たちが消防団に憧れをもってもらう取組みを推進していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 HP、SNS等を活用した消防団活動に興味を抱く情報発信の推進 2 消防団活動を知ってもらうためあらゆる機会での消防団活動の見学や資機材等の展示の推進 3 現役消防団員との座談会の実施方法の検討
	募集広報の充実・強化	<p>「地域との繋がり」や「消防団の体験談・実情」を載せた足立区独自のチラシを作成したことから、地域等のイベントで配布するなど戦略的な募集活動を展開していく。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 インターネット広告による募集広報の拡充 2 各種リーフレット等への二次元コード掲載による「東京消防団エントリーシート」を活用した入団促進 3 団員インタビュー動画等を活用した地域紹介や消防団の魅力が伝わる広報の推進
	女性や学生など対象に応じた募集	<ol style="list-style-type: none"> 1 足立区内6大学の学園祭や、区が主催するイベントなどにおいて足立区内3消防団が力を合わせて積極的な募集活動を展開していく。 2 大学内のボランティアサークル等、ターゲットを絞った募集活動を推進していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防団協力事業所及び制度の周知 1 学生消防団認証制度のメリットの周知・付加価値の検討
	震災時等、大規模火災時の消火活動力向上のための人員確保	<ol style="list-style-type: none"> 1 機能別団員制度及び大規模災害団員制度を広く広報し、退団抑制と団員の確保に努める。 2 町会の区民消防隊員、事業所の自衛消防隊員等の入団を推進することで、消防団との連携強化を図るとともに、大規模災害時の人員確保に繋げていく。 3 女性団員や年齢が高い団員の活躍する機会を増やすため、訓練支援や安全管理など、機能別団員の任務の拡充について都に要望していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防団協力事業所による社会貢献や消防団PRの強化 2 学生認証制度の周知による募集広報の強化 3 大規模災害団員制度等の更なる周知と活用による退団への対策の強化
活動面での負担軽減に配慮した資機材整備	新たな資機材整備による負担軽減	<ol style="list-style-type: none"> 1 震災時の火災対応に有効と思われる長距離ホース延長の負担軽減が可能な新たな資機材の整備を都に要望していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 電動アシスト付きホースカー ・ ホース背負い器具 2 軽量かつ最新機能を備えた資機材の整備を都に要望していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 軽量ホースカー 	<ol style="list-style-type: none"> 1 震災時等、迅速にホース延長できるホースバックの整備 2 資機材の電動化や新しい技術を取り入れた資機材の導入検討 3 消火能力や安全管理向上のための資機材の導入検討
	既存資機材の軽量化やコンパクト化による負担低減	<p>既存資機材の更新時には、軽量かつ取扱いが簡素化された資機材への計画的な更新を都に要望していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 折り畳み式アルミリヤカー ・ 油圧救助資機材 ・ 非常用発動発電機 	<ol style="list-style-type: none"> 1 油圧救助資機材や手引き可搬ポンプ搬送台車など、各既存資機材の軽量化やコンパクト化、電動化の検討 2 既存資機材の整理統合の検討 <p>更新に合わせた既存資機材の軽量化やコンパクト化など市場の開発動向の注視と検討</p>



5 東消防消第431号
令和5年8月16日

足立区消防団運営委員会
委員長 近藤 やよい 様

東京都知事 小池百合子



特別区の消防団の設置等に関する条例（昭和38年東京都条例第53号）第4条の規定に基づき、別紙のとおり諮問します。

別紙

1 諮問事項

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

2 趣旨

特別区消防団は、地域になくってはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところである。

さらに、本年は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核である消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要がある。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化している。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策について諮問するものである。

3 審議期間

令和5年8月から令和7年3月まで

4 答申期日

令和7年3月31日

特別区消防団運営委員会の諮問について

1 諮問事項

変化する社会情勢に対応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか

2 審議期間

諮問日から令和7年3月末日まで（1年8か月）

《審議日程》 1回目:令和6年2月8日 2回目:令和6年7月頃予定 3回目:令和7年1月頃予定 計3回

3 諮問の趣旨

- ・ 特別区消防団は、地域になくなくてはならない代替性のない存在である。
- ・ 地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきた。
- ・ 東京の安全安心を守っていくためには消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要がある。
- ・ 特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されている。
- ・ DXの進展による働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢が変化している。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、「変化する社会情勢に適應し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策」について諮問することとなった。

4 消防団の現状

- 1 消防団員数の不足（充足率維持の困難性）
- 2 消防団員の平均年齢上昇に伴う消防活動負担の増加
- 3 経験豊富な団員の定年退職による指導者の減少
- 4 地域住民との関係性の変化

5 課題

課題1 地域防災の要である消防団として、変化及び成長が求められている

課題2 地域で活動力を発揮し、地域住民の負託に応え続けなければならない

特別区消防団運営委員会の諮問について

6 検討項目

1-1	組織の活性化について
1-2	活動環境の改善方策について
2-1	人材育成方策について
2-2	地域住民に知ってもらう方策について

7 検討の方向性

検討1 組織の活性化について

検討内容

- 1 団活動にやりがいを持つための方策の把握
- 2 資格取得講座の拡充
- 3 地域特性に応じた講習や教養講座の充実

検討2 活動環境の改善方策について

検討内容

- 1 団員間の情報伝達のあり方
- 2 消防団事務の効率化
- 3 各種資機材の更新に合わせた仕様変更

検討3 人材育成方策について

検討内容

- 1 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容の検討
- 2 経験豊富な団員（中核となる団員）による訓練指導体制等の検討
- 3 操法訓練と実動訓練の実施の目安などの検討
- 4 訓練効果の確認方策（実効性のある訓練ができているか否か等の確認）について検討

検討4 地域住民に知ってもらう方策について

検討内容

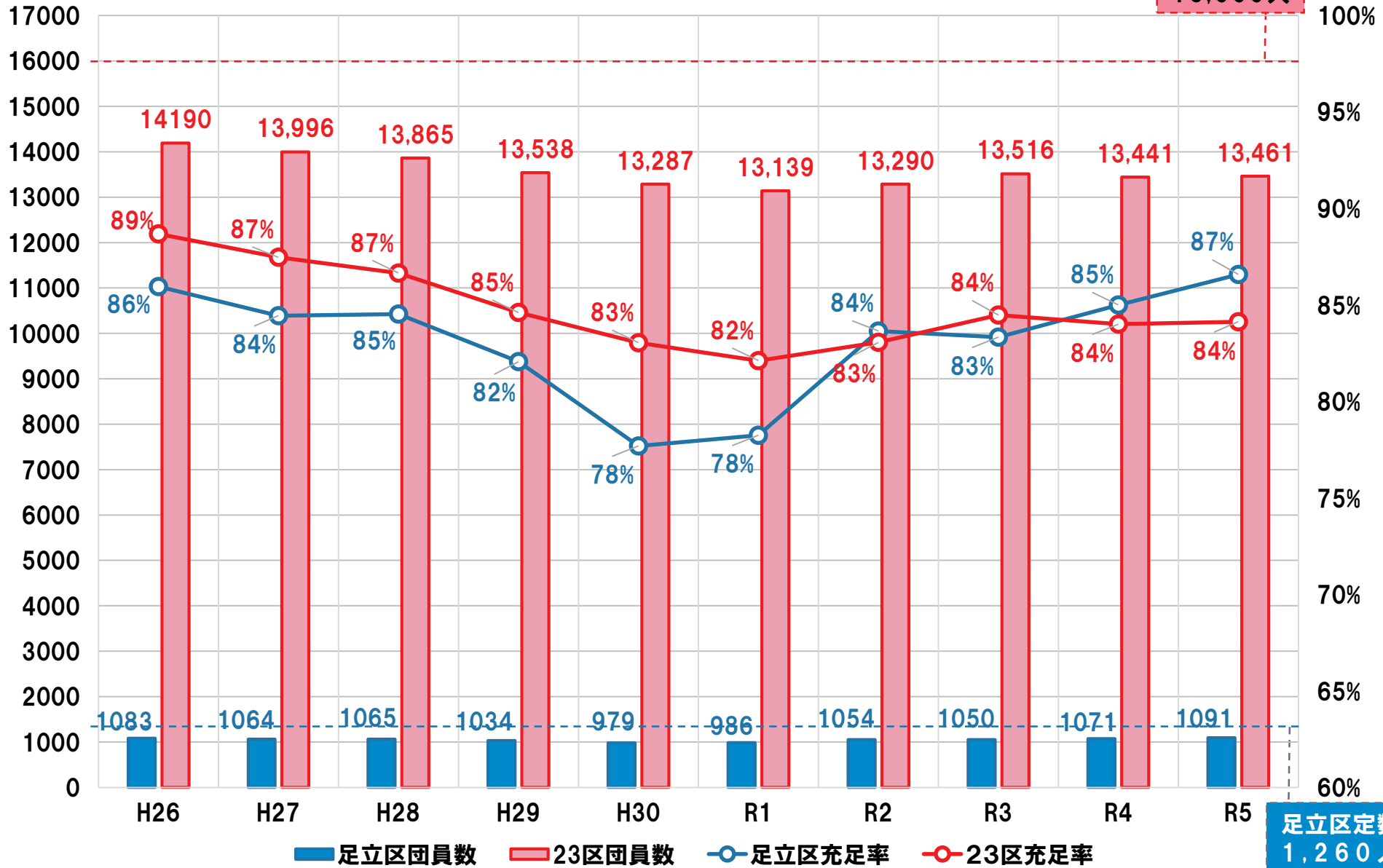
- 1 地域から、より理解と信頼を得られる消防団づくりの検討
- 2 地域での積極的な災害活動の定着と区等と連携した普及方法の検討

過去10年間の諮問一覧（5件）

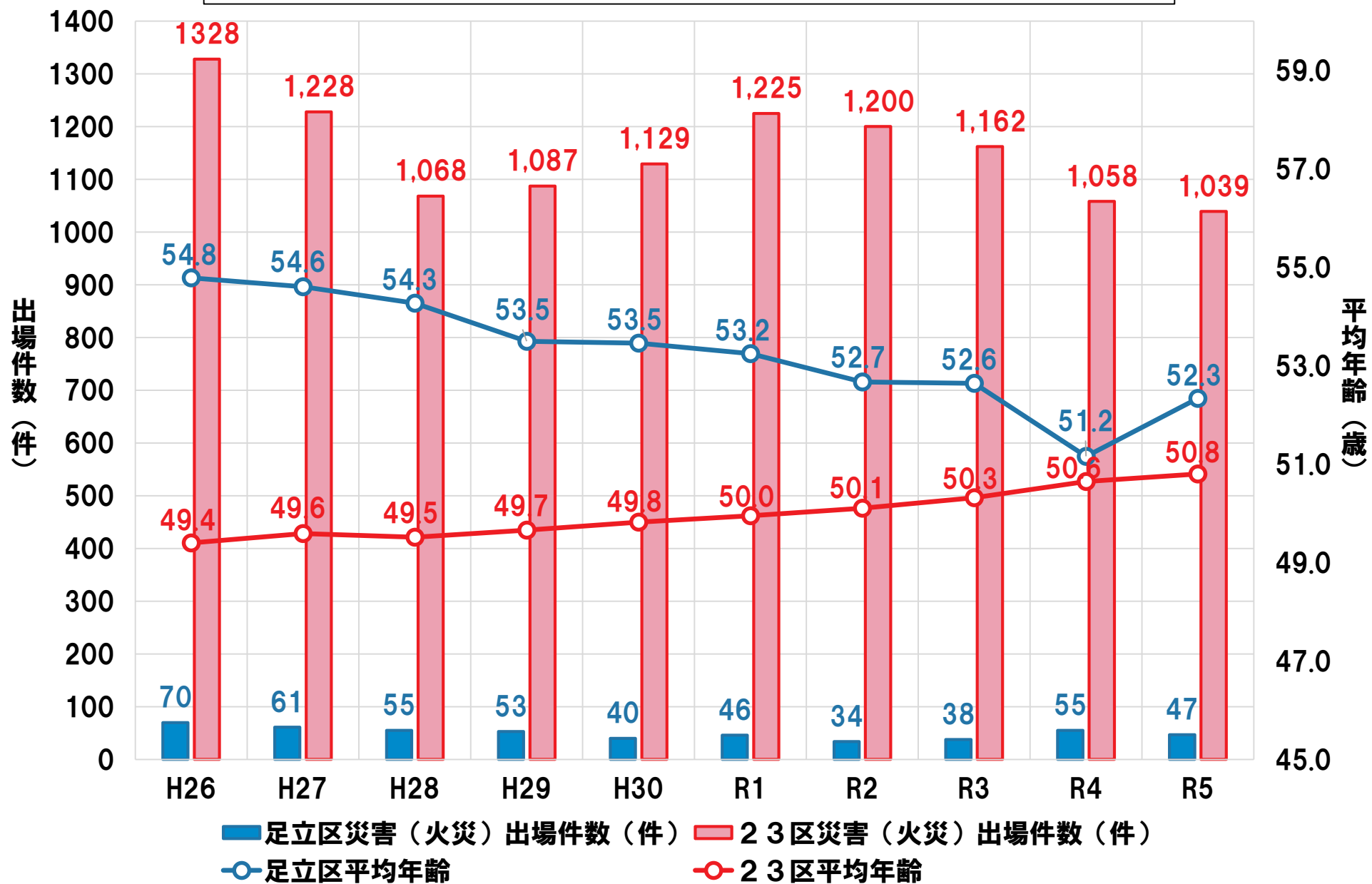
年 度	諮問期間	諮問事項
平成26年度	平成26年8月から 平成28年3月まで	「特別区消防団を更に充実強化するための 入団促進方策及び活動強化方策について」
平成28年度	平成28年11月から 平成30年3月まで	「東京2020オリンピック・パラリンピック 競技大会に向けて、消防団の活動能力を強化す るための方策はいかにあるべきか」
平成30年度	平成31年1月から 令和2年3月まで	「特別区消防団の組織力を強化するための方策 はいかにあるべきか」
令和2年度	令和2年8月から 令和3年7月まで	「水災時において消防団員が効果的に活動する 方策はいかにあるべきか」
令和3年度	令和3年10月から 令和5年3月まで	「大規模地震発生時における特別区消防団の消 火活動能力を向上させる方策はいかにあるべき か」

足立区及び23区の消防団員数と充足率の推移

団員数(人)



足立区及び23区の災害（火災）出場件数と平均年齢の推移



(案)

令和6年 月 日

足立区内消防団員各位

足立区消防団運営委員会

アンケート調査に対するご協力について（依頼）

趣 旨

このアンケートは、特別区消防団運営委員会の諮問事項に対する答申策定にあたり、変化していく社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続けるためにはどうすべきであるのか団員皆様のお声を伺い、諮問内容に反映させるために実施するものです。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、ご協力をお願いします。

《令和5年8月 特別区消防団運営委員会 諮問事項》

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

※ 令和6年〇月〇日（〇）までに、裏面のアンケート用紙の該当する項目に〇印を付けて回答してください。

(案)

別紙

令和5年8月諮問に関するアンケート調査について

消防団運営委員会の諮問事項「変化する社会情勢に対応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」に対する答申を検討するための資料とさせていただきますので、アンケートに御協力をお願いします。 回答期限 月 日

アンケートには、該当する番号に○をつけて回答してください。

あてはまる選択肢がない場合は、あなたの考えに最も近い選択肢を選んでください。

質問1 あなたは現在、消防団員として「やりがい」や「充実感」をどのくらい感じていますか。

- ① ほとんど感じていない ②あまり感じていない (⇒質問2-1へ)
③ やや感じている ④とても感じている (⇒質問2-2へ)
⑤ どちらとも言えない (質問2-2の「⑨その他」へ理由を記載してください。)

質問2-1 「ほとんど感じていない」や「あまり感じていない」と感じるのはどのようなときですか(複数選択可)。

- ① 火災などの災害現場活動に従事する機会がない(少ない)とき
② 防災訓練や応急救護訓練が活動の中心となっているとき
③ ポンプ操法大会(事前訓練含む)などの行事に参加できなかったとき
④ 各種教育や研修、訓練に参加しても知識・技術の向上がなかったとき
⑤ 警戒や火災予防広報活動が活動の中心となっているとき
⑥ 地域の人々との交流がないとき
⑦ 他の団員と会話をするなどの交流がないとき
⑧ 階級が上がらないとき
⑨ その他 ()

⇒質問3へ

質問2-2 「やや感じている」や「とても感じている」と感じるのはどのようなときですか(複数選択可)。

- ① 火災などの災害現場活動に従事したとき
② 防災訓練や応急救護訓練に従事したとき
③ ポンプ操法大会(事前訓練含む)などの行事に参加したとき
④ 各種教育や研修、訓練に参加して知識・技術の向上が図られたとき
⑤ 警戒や火災予防広報活動に従事したとき
⑥ 地域の人々との交流があったとき
⑦ 他の団員と会話をするなどの交流があったとき
⑧ 階級が上がったとき
⑨ その他 ()

⇒質問3へ

質問3 あなたが今後もやりがいを感じ、永く消防団活動を継続していくために改善してほしいことは何ですか（複数選択可）。

- ① 能力・実績に応じた任用（階級制度）
- ② 処遇の改善（費用弁償・報酬、表彰制度）
- ③ 活動環境の改善（人間関係への配慮や現場活動環境の改善等）
- ④ 消防団装備・被服の整備（車両や資器材の充実）
- ⑤ 消防団施設の整備（分団本部施設の拡充）
- ⑥ 事務事業計画及び教育訓練計画の見直し（行事や訓練参加の軽減）

（理由記載欄）

質問4 あなたは次のような消防団活動を行っていくうえで負担に感じていることはありますか。参加したことのない項目は回答する必要はありません。

項目	体力的な負担	心理的な負担
火災などの災害現場活動	①ない ②ややある ③ある	①ない ②ややある ③ある
防災訓練や応急救護訓練の指導	①ない ②ややある ③ある	①ない ②ややある ③ある
ポンプ操法大会（事前訓練含む）	①ない ②ややある ③ある	①ない ②ややある ③ある
消防団合同点検	①ない ②ややある ③ある	①ない ②ややある ③ある
各種教育や研修、訓練	①ない ②ややある ③ある	①ない ②ややある ③ある
警戒や火災予防広報活動	①ない ②ややある ③ある	①ない ②ややある ③ある
団員募集活動	①ない ②ややある ③ある	①ない ②ややある ③ある
他の団員との交流（プライベートでの交流を除く）	①ない ②ややある ③ある	①ない ②ややある ③ある
消防団員としての制約（勤務関係）や規律	①ない ②ややある ③ある	①ない ②ややある ③ある
その他	（ ）	

質問5-1 （質問4でひとつでも「②ややある」または「③ある」を回答した方）どのようなことを負担に感じましたか。具体的におしえてください。

()

⇒質問6へ

質問5-2 （質問4でひとつでも「①ない」を回答した方）負担に感じないために、自らおこなっていることなどを具体的におしえてください。

()

⇒質問6へ

質問6 消防団の組織力を低下させずに、団員の活動上の負担を軽減していくためには何が重要だと思いますか（複数選択可）。

- ① 各種教育・訓練の時間及び参加人員の縮減（効率化）
- ② 災害時支援ボランティア、消防少年団、町会等と連携した活動
- ③ 自主学習ツール等、知識・技術が習得しやすくなる環境の充実
- ④ 団員数の充足
- ⑤ 積極的な広報活動による消防団に対する地域の理解
- ⑥ 災害情報や消防団活動に関する情報の早期伝達
- ⑦ その他

()

質問7 消防団の消防力を維持するための計画的な人材育成について、どのような取り組みが必要だと感じますか（複数選択可）。

- ① 各団員に指導員（上の階級の者）を指定して行う継続的な指導
- ② 他の分団との連携訓練
- ③ 消防署隊との連携訓練
- ④ 災害現場や実際の動きをイメージするための動画資料の展開
- ⑤ 消防団幹部等による訓練熟練度の確認
- ⑥ 災害活動に従事した団員による体験談や体験記の発表等
- ⑦ その他

()

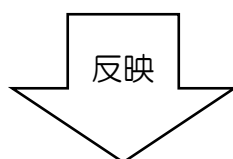
別紙2（アンケート調査用紙）

自由記載欄

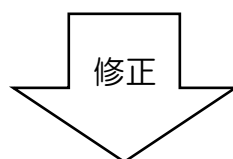
その他御意見や御要望がありましたら、自由に記入してください。

足立区消防団運営委員会 今後の審議日程

<p>第1回運営委員会 令和6年2月</p>	<ul style="list-style-type: none">• 今回の諮問事項の概要について審議• 前回の諮問事項に対する答申内容と対応方針
-----------------------------------	---



<p>第2回運営委員会 令和6年7～8月</p>	<ul style="list-style-type: none">• 答申書(案)の概要説明、審議
-------------------------------------	--



<p>第3回運営委員会 令和7年1～2月</p>	<ul style="list-style-type: none">• 修正答申(案)の審議• 答申書の決定
-------------------------------------	---



<p>令和7年3月31日</p>	<ul style="list-style-type: none">• 東京都知事へ答申
------------------	--